

世界初！ コウモリから新型リッサウイルスを検出

中時電子報 www.chinatimes.com 2016-11-10 04:10



台南市安南区鹿耳門で捕獲された1匹の東アジアイエコウモリは、検査の後「リッサウイルス」に感染していることが見つかったが、その遺伝子タイプは世界初の新型であった。

(写真は東アジアイエコウモリ、台北市コウモリ保育学会提供)

スとされ、今回の検査により検出されたのは新型のリッサウイルスで、いずれの遺伝子タイプにも属していなかったため、新型ウイルスとなる」と語る。

台南市鹿耳門のコウモリから狂犬病に似た「リッサウイルス」が検出されたが、今回のウイルスの遺伝子は世界で初めての新型のものだ。このリッサウイルスは、人獣共通のリスクがあり、国外では人がコウモリに咬まれてリッサウイルスに感染死した事例がある。専門家は、「コウモリが昼間に活動していたり、理由もなく墜落したりしていたら異常があるので、接触をしないこと、もし、咬まれた場合には速やかに医師にかかること、狂犬病のワクチンを打ち、傷口に狂犬病免疫グロブリンを使ってウイルスを中和するとよい」と勧告している。

衛生福利部疾病管制署の莊人祥副署長は、「リッサウイルスには14種類の遺伝子タイプがあるのだが、大きく分けて3つのタイプに分類される、狂犬病ウイルスは第1類第1遺伝子タイプのリッサウイルス

狂犬病とリッサウイルス、新型リッサウイルスの比較

	狂犬病	リッサウイルス (狂犬病を除く)	新型リッサウイルス (今回発見)
分布	全世界	欧州、豪州、中央アジア、アフリカ	現時点では台湾のみ
宿主となる動物	ほ乳類(台湾で陽性反応が検出されたのはイタチアナグマ、ハクビシンのみ)	コウモリ、猫、犬、ベンガルマングース、綿羊、ムナジロテン、	現時点では台湾で発見された東アジアイエコウモリのみ
人獣共通	Yes	とは限らない(6つの遺伝子タイプではヒトに感染)	人獣共通でリスク
ヒトの死亡例	毎年約5万人が死亡	歴年13人が死亡	なし
致死率	高(発症したら100%が死亡)		未知(死亡例なし)
潜伏期	最短7日以内、最長では7年に達するものも	最短で4週間、最長で約27ヶ月	未知(死亡例なし)
ヒトに現れる症状	嘔吐、頭痛、発熱、嚥下困難、顔面麻痺、対話困難、運動失調、恐水症など		未知(死亡例なし) 正し、症状は狂犬病に近いものであろう
資料ソース	疾管署、防検局、台湾大学獣医専業学院費昌勇教授		表作成：楊騰凱

農業委員会動植物防疫検疫局の施泰華副局長は、「今回ウイルスが見つかったコウモリは、台南市安南区

鹿耳門で捕獲された東アジアイエコウモリで、有志が 7 月 26 日に検査に出し、家畜衛生試験所が伝染病を見つけた後、10 月 24 日になって通報された。今回、台湾で初めてリッサウイルスが検出されたというだけでなく、遺伝子タイプが世界初の新タイプであり、リッサウイルスの第 4 遺伝子タイプとの類似性は 80%ほどしかなかった」と指摘している。

施泰華副局長は、「リッサウイルスには、人獣共通のリスクがあり、ヒトが感染した場合、嘔吐八頭痛、発熱などの脳炎症状とともに恐水症等を伴う、過去に国外ではコウモリに咬まれて感染し、死に至ったことがある。『全てのコウモリには感染のリスクがあり、人々は接触を避け、万一咬まれた場合にはすぐに病院に行くことが必要』なのだ」と語る。

台湾大学獣医専業学院の費昌勇教授は、「二つの点からコウモリが感染しているか否かを見極められる。まず、コウモリは夜行性の動物であり、もし昼間に活動をしていたら必ず問題がある。もう一つは、コウモリが理由もなく落ちてきた場合には、病気が現れたということになり、接触を避けて、直ちに現地の動物疾病防疫機関に通報して現場処理をしてもらうことが必要だ」と指摘する。

莊人祥副署長は、国際的な研究報告を基に、「狂犬病或いはリッサウイルスに暴露した後、狂犬病ワクチンを打ち、同時に狂犬病の免疫グロブリンを傷口に塗布してウイルスを中和するのだが、その当時、感染したコウモリに触れたヒトは 5 名いたため、全員にワクチンを接種し、これまでのところ感染症状は現れていない」と指摘する。

(中国時報)

<http://www.chinatimes.com/newspapers/20161110000615-260114>

..... 以下は中国語原文

全球首見！蝙蝠驗出新型麗沙病毒

中時電子報

www.chinatimes.com

2016-11-10

04:10



台南鹿耳門的蝙蝠遭檢出類似狂犬病的「麗沙病毒」，病毒基因還是全球首見的新型。此病有人畜共通風險，國外曾有人類被蝙蝠咬傷，感染到麗沙病毒致死的案例。專家建議，蝙蝠若在白天活動或無故墜地必有異狀，須避免接觸，如遭咬傷應盡速就醫，可施打狂犬病疫苗，並使用狂犬病免疫球蛋白浸潤傷口中和病毒。

衛生福利部疾病管制署副署長莊人祥說，麗沙病毒共有 14 種基因型，大致可區分為 3 大類，狂犬病病毒屬第 1 類第 1 基因型麗沙病毒，這次檢驗出來的新型麗沙病毒，不屬於任何一型，所以列為新型病毒。

農委會動植物防疫檢疫局副局長施泰華指出，本次發現病毒的蝙蝠是在台南安南區鹿耳門拾獲的東亞家蝠，有志工在 7 月 26 日送驗，家畜衛生試驗所發現染病後，也在 10 月 24 日通報。此次不僅是台灣首次檢測出麗沙病毒，基因型還是全球首見

台南市安南區鹿耳門拾獲 1 隻東亞家蝠，送檢後發現感染「麗沙病毒」，而且基因型還是全球首見的新類型。(圖為東亞家蝠，台北市蝙蝠保育學會提供)

的新類型，與麗沙病毒第 4 基因型只有約 80% 的相似度。

施泰華表示，麗沙病毒有人畜共通的風險，人體若遭感染，嘔吐、頭痛、發燒等腦炎症狀，以及恐水症等，過去國外也曾有民眾被蝙蝠咬傷受到感染，進而死亡的案例。「所有的蝙蝠都有有染病風險，民眾應避免接觸，若被咬傷，也應盡速就醫」。

台灣大學獸醫專業學院教授費昌勇指出，民眾可從簡單兩點判斷蝙蝠是否染病，首先，蝙蝠屬於夜行性動物，如果在白天看見蝙蝠活動，一定有問題，另外，蝙蝠若無故墜落在地，也是生病才會出現，應避免接觸，並盡速通報當地動物疾病防疫機關到場處理。

 狂犬病、麗沙病毒、新型麗沙病毒比較表			
	狂犬病	麗沙病毒 (扣除狂犬病)	新型麗沙病毒 (本次發現)
分布	全球	歐洲、澳洲、中亞、非洲	目前僅台灣首例
動物宿主	哺乳類(台灣僅鼬獾、白鼻心檢出陽性)	蝙蝠、貓、犬、水獺、綿羊、石貂	目前僅東亞家蝠1例
人畜共通	是	不一定 (六種基因型可動物傳人)	有人畜共通風險
人類死亡案例	每年約5萬人死亡	歷年有13人死亡	無
致死率	高(發病幾乎100%死亡)		未知(無人類案例)
潛伏期	最短7天內， 最長可達7年	最短4周， 最長約27個月	未知(無人類案例)
人類症狀	嘔吐、頭痛、發燒、吞嚥困難、顏面麻痺、說話困難、運動失調、恐水症等		未知(無人類案例)， 但症狀應類似狂犬病
資料來源：疾管署、防檢局、台灣大學獸醫專業學院教授費昌勇		製表：楊騰凱	

莊人祥指出，據國際文獻研究報告，暴露於狂犬病或麗沙病毒後，可施打狂犬病疫苗，並使用狂犬病免疫球蛋白浸潤傷口，用以中和病毒，當時接觸過染病蝙蝠的民眾有 5 位，都已施打過疫苗，目前沒有感染症狀。

(中國時報)